

耳寄りの医療最新情報

経鼻内視鏡システム導入！

内視鏡センターに経鼻内視鏡システムが導入されました。経鼻内視鏡とはその名のとおり、鼻から入れる内視鏡で、特徴としては以下の点があります。

①吐き気が少ない

風邪をひいたときの診察で、舌の奥をへらみたいなもので押されて「オエッ」となりそうな経験をしたことがあると思います。これを咽頭反射(いんとうはんしゃ)といいますが、口から内視鏡を入れる場合は、多少なりともこうした咽頭反射が起こります。ところが、鼻から入れる場合は舌の根元に触れないので、ほとんど吐き気をもよおすことなく検査することができます

②検査中に話がわかる

口から内視鏡を挿入する場合、口がふさがってしまつたために検査をしているときは話ができません。しかし、鼻からの場合は口がフリーなので、検査をしている医師と会話ができます。気になったことをその場で確認できるのが安心して受診できる理由です。

③体ごやわらう

検査中の心拍数と血圧・酸素濃度について、従来の口からの内視鏡検査との違いを調べたところ、鼻からの内視鏡検査の方が体に与える負担が少なく、体にやさしい検査だといふことがわかりました。内視鏡が食道に入るときは心拍数と血圧が上昇、その一方で酸素濃度が下がる傾向にあります。酸素濃度が下がること、心拍数が上がった心臓ではどんな酸素を必要とするのに酸素が足りないという状態が起こる可能性があります。その点、鼻からの検査の場合、心拍数はわずかに上がりますが、血圧の上昇はなく、酸素濃度も下がりにません。ですから心臓に負担をかけることなく、酸素不足になる危険性も少ないのです。

患者さんの苦痛を軽減した胃カメラ検査で早期発見、早期治療を！



副院長 毛利 郁郎
(内科・消化器内科・糖尿病内科)

④ 30分〜60分で

日常生活に戻れる

鼻からの内視鏡検査の場合、鼻腔(びくう)への局部麻酔を行います。麻酔から覚めるのも早く、ほとんど日常生活へ復帰できます。通常の口からの場合、1〜2時間は食事ができませんが、鼻からの検査の場合は検査終了後30分〜60分で、水を飲んだり食事をする事ができます。原則、注射を行わないので、麻酔が覚めて体の状態がもどれば運転もすべしできます。

最近流行の冬・季下痢症

ノロウイルス感染対策について

冬に流行する胃腸炎が数年前から話題になっております。以前は風邪が腹に付いたと思っていたのと同じかもしれません。今問題になっているのは「ノロウイルス」であります。感染力が極めて強く、家族が次々と感染し下痢を起こすことが多いです。通常は2日くらいで症状は改善します。学校や老人ホームなどでは急速に多くの人が感染することもあります。脱水症状が強い場合には点滴注射で補液すればよくなります。まれに体力のない高齢者が嘔吐した際に吐物を誤嚥して肺炎を引き起こして命取りになることもあります。

予防は金沢市医師会産業医便り「ノロウイルス対策」を参照してください。

感染予防対策

- ① 十分加熱調理する。特にカキ、アサリ、シジミ、ハマグリ等の2枚貝（85℃以上で1分以上）。
 - ② 手洗いの励行、すすぎを流水で十分に行う。手洗い後の手拭には共用タオルは使用しない。
 - ③ 殺菌は85℃以上の熱湯で1分以上の加熱又は次亜塩素酸ナトリウムによる消毒。
- ノロウイルスの殺菌はアルコールが効かないので、塩素系漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム）で行う。市販品の多くは塩素濃度が約5%ですので、50～250倍に薄めて使用する。

《原液の塩素濃度が5%の場合：ハイター、ブリーチ、ピューラックス》

消毒液濃度	希釈	方法	使用する場所（殺菌力は時間がたつと低下する）
0.1%消毒液 (1000ppm)	50倍	原液10ml + 水500ml	嘔吐物や便で汚染された場所や衣類の消毒：金属を消毒した場合には10分後に水で拭き取る。
0.02%消毒液 (200ppm)	250倍	原液10ml + 水2500ml	調理器具は消毒液に浸して拭く。床、トイレのドアノブ、便座などは消毒液に浸した布等で拭く。10分後に水で消毒液を拭き取る。

危険ですので厚めの手袋をして取り扱ってください。

ペットボトルのキャップ1杯が約5mlです。

嘔吐物や便による汚染の処理

- ① 手袋、マスク、エプロンを着用し、作業中は窓を開けるなど換気を行う
- ② 嘔吐物等を布や紙で、外側から内側に向けて、静かに拭き取る
- ③ 拭き取った布等はすぐにビニール袋に入れる
- ④ 汚染した床等は0.1%の塩素系漂白剤をしみ込ませた布等で浸すように拭き、使用した布等はビニール袋に入れ、袋の口をしっかりと縛る
- ⑤ 塩素は金属腐食性があるので、金属がある場合には10分後にしっかりと水拭きする
- ⑥ 別のビニール袋に、先ほどの汚染物を入れて口を閉じた袋を入れる
- ⑦ 手袋を裏返ししながら脱ぎ⑥のビニール袋に入れ、その袋の口を縛って捨てる
- ⑧ 最後に石鹸と流水で手をよく洗う

洗濯物の取り扱い

他の家族のものとは別に洗濯する。

嘔吐物や便で汚染した衣類は手袋、マスク、エプロンをして、付着した汚物をとりのぞき、85℃以上で1分以上熱湯消毒するか、0.1%の塩素系漂白剤の液に10分間つけて消毒する。汚物がついていない衣類は0.02%の消毒液に10分間つけて消毒する。消毒後は普通に洗濯する。

入浴

浴槽に入る前に身体をよく洗う。下痢をしているときは入浴をできるだけ控え、回復後1週間は入浴順番を最後にする。タオル等の共用は避ける。浴槽は毎日清掃する。

勤務

嘔吐、下痢の症状がある場合には職場を休む。
休みを取れない場合には普段以上に確実な手洗いをおこなう
(出勤時、トイレ使用后、食事前、帰宅時)。
症状のある場合には、食事や食品に関する業務はしない。
症状が治まって1週間は排菌があるので十分に注意する。

金沢市医師会産業医委員会070114



院長 前田 敏男

(内科・リハビリ科・放射線科)

冬場はインフルエンザだけでなく食中毒も多発します。帰宅時には「うがい」と「手洗」を励行しましょう。

全体研修～感染防止対策～

平成20年11月20日(木)午後5時40分より臨床検査科の荒崎係長による感染防止対策の研修が行われました。特にインフルエンザとノロウイルス対策に重点を置き、これから冬場を迎えます感染防止対策は重要となってきます。ちょうど院内感染対策委員会主催による手洗い研修も実施されていることから、「しっかりと手洗い」、「インフルエンザワクチンの早期接種」について職員一人一人が注意することが最も重要な防止対策です。「マスク」「手洗い」「ワクチン接種」を合言葉にしっかりと取り組みましょう!



防火訓練を実施しました

平成20年11月11日(火)午後1時より秋の防火訓練を実施しました。今回の訓練は夜間想定での訓練で、自衛消防隊長は平松先生にお願いし、白川施設課長の説明の後、火災警報の発動とともに患者役4名の職員を搬送しました。反省会では「避難した患者数の報告を正確におこなうこと」や「火災報知器が聞こえない場合を想定して電話での連絡も必要」など活発な意見が交わされました。



- 1. 医療を受ける人々の権利の尊重**
医療を受けるすべての人々の生命・尊厳・人権を尊重する
- 2. 質の高い医療の普及**
西洋医学・東洋医学を結集し、科学的且つ質の高い医療の普及に努力する
- 3. 最善の治療へのたゆまぬ努力**
常に医療の研鑽、向上に努め一人一人の個性を尊重した最善の治療を行う
- 4. 地域医療、福祉との連携**
生活習慣病および高齢者医療に重点を置き、地域の医療福祉機関と連携する
- 5. 地域社会への貢献**
社会的責任を自覚し、地域とそこに暮らす人々の幸福のために貢献する
- 6. 教育と研修の充実**
医療に関する教育・研修を充実させ、職員が誇りと生きがいを持てる職場とする

総合的な健康づくりをお手伝い

医療法人 社団 映寿会みらい病院



平成21年 糖尿病教室予定

第1回	12月 3日(土)	午前11時～12時
第2回	2月14日(土)	午前11時～12時
第3回	3月14日(土)	午前11時～12時
第4回	4月11日(土)	午前11時～12時

* 場所/当院外来 サロン「メイ・キッス」

☆糖尿病は生活習慣病です。生活習慣を改善することが第一歩です。

そのためには正しい情報を持つことが大切です。教室に参加して最新の糖尿病の情報を取り入れて健康に留意しましょう。

当院の教室スタッフ2名は糖尿病療養指導士の資格をもっています。



管理栄養士・
糖尿病療養指導士
西川 圭子

診療時間

月～金 ■午前9時～12時30分・午後2時～5時
(受付/午前8時45分～12時・午後1時45分～4時45分)
土 ■午前9時～午後3時
(受付/午前8時45分～午後2時45分)

診療科目

内科、神経内科、消化器内科、循環器内科、
呼吸器内科、糖尿病内科、漢方内科、リハビリテーション科、婦人科、皮膚科、泌尿器科、アレルギー科、リウマチ科、放射線科

2009年1月発行 発行/医療法人社団映寿会みらい病院
〒920-8201

金沢市鞍月東1丁目9番地

TEL(076)237-8000 FAX(076)238-7624

ホームページ <http://www.eijukai.jp/>

映寿会みらい病院の情報が満載です。ぜひアクセスしてみてください。